

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 3 号

平成29年 5月16日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

支部陸上大会 2種目で県大会出場権獲得 (1位) 6種目で惜しくも2位、入賞者44名



5月11日(木)、今年で50回目を数える岩瀬支部陸上競技大会が、鏡石町鳥見山陸上競技場で開催されました。途中雨が降り出しましたが、全体としては微風漂う良好なコンディションの中で、本校生徒は、2種目で県大会出場の1位、6種目が県大会まであと一步の2位、参加数49名中のべ44名が8位以内の入賞を果たしました。

壮行会では、本紙第2号で紹介した「入魂の練習、闘魂の試合」という言葉を出して、戦う姿勢を次のように強調しました。

“FIGHT”というのは、「がんばれ」という意味よりも強い意味があります。文字どおり「戦え」、戦うからには「勝て」という意味です。“FIGHT”という声援が耳に届いたら、「対戦相手に勝て、自分に勝て」と胸に響いてほしい。

1、2年女子の低学年4×100mリレー予選から競技が始まり、私もプログラムとカメラを手に声援をおくります。まだ顔と名前が一致しないため、そして、ゼッケン番号が読み取れないため、名前を叫ぶことができないとき、「ファイトー、(ここから勝負だー。)」のように、初めに「ファイト」と叫ぶことで中学生への応援だと伝わることを願いながら、声を張り上げました。

もちろんその声援の効果ではなく、生徒の日頃からの練習の成果が発揮され、昨年を上回る成績をあげることができた。その陰には、体育科の教師とともに朝練習、放課後練習、鳥見山陸上競技場に出かけての現地練習と協力を惜しまなかった指導者の熱心な指導と、それを支えた全教職員の協力、さらには保護者、ご家族の皆さんのご理解とご協力があったことを、ここで触れさせていただきます。

県大会出場権獲得数

須賀川一中：2	本 校：2
須賀川三中：2	西 袋 中：3
稲 田 中：1	大 東 中：2
長 沼 中：5	鏡 石 中：5
天 栄 中：8	

また、放課後部活動に足を運んだ時に、

練習は「ガンバ」、試合は「ファイト」

と、私に話しかけてくれた生徒が何人もいました。壮行会でのあいさつ(本校では「あいさつ」と言わず、「檄」と言っています)を踏まえたもので、今後に向けて大きな期待が膨らみます。



岩瀬地区陸陸上競技大会の入賞者

【男子】

1年100m	4位	橋本 祐亮①
	5位	庄島 唯人①
3年100m	7位	櫻花 紫音③
共通200m	3位	鈴木 倫久③
	8位	須藤 颯斗②
共通400m	5位	猪越 諒③
2年奨励1500m	3位	小室 涼②
共通3000m	4位	溝井 優人③
	5位	名越 巧②
共通走高跳	2位	水野 大翼③
	6位	佐藤 諒②
共通砲丸投	6位	水野 由惟③
低学年4×100mR	1位	
		庄島唯人① 松川侑矢② 橋本 祐亮① 深谷勝永②
共通4×100mR	5位	
		櫻花紫音③ 鈴木倫久③ 溝井優人③ 大森竜馬③
四種競技(110mH・ 砲丸投・走高跳・400m)		
	3位	大森 竜馬③
補助役員の生徒もよく役割を果たしました。		



【女子】

1年100m	4位	石井 愛莉①
2年100m	2位	野中 美月②
3年100m	6位	鈴木 禎乃③
共通200m	6位	ミヒニャック杏菜②
共通800m	2位	菊地 麻耶③
	3位	佐藤 玲美②
2、3年1500m	5位	名越 美帆③
共通100mH	1位	斎藤 なお③
	2位	菊地 美衣②
共通走高跳	6位	小林 ゆあ③
共通走幅跳	2位	薄井 彩花②
	7位	堀合 優花③
共通砲丸投	3位	村上 晶②
	4位	熊田 紗那③
低学年4×100mR	3位	
		池田心美① 原 瑞姫② 石井愛莉① 遠藤彩音②
共通4×100mR	4位	
		金澤玲奈③ 鈴木禎乃③ 野中美月② 鶴沼姫羅々③
四種競技(100mH・走高跳・砲丸投・200m)		
	2位	金澤 玲奈③
(注) ○に数字は学年です。		

ひと味違うぞ！ 二中学生



朝、横断歩道で一人一人に「おはよう」と声をかけます。心を込めて自分からあいさつするように意識し、「あなたにあいさつしたんだよ」と気づいてもらえるよう、目を見て手を振ったりもしています。手を振り返したり、とびきりの笑顔であいさつを返してくれる生徒も多く、その明るさと素直さで「ひと味違う」あいさつができる生徒も少なくありません。

しかし、そういう生徒ばかりではありません。ある日、会釈はしたのですが、声が出ない女子生徒がいました。前を歩いていた別の女子生徒が（声が聞こえなかったからでしょう。）振り向いて「ちゃんとあいさつするんだよ。」と声をかけてくれました。

「あいさつの二中」を実現するために、「私はしているよ」ではなく、できないでいる人がいるときに働きかけてくれる生徒がいる。「ひとりの生徒もないがしろにしない」という心を持った生徒がいるということがすばらしい。ここにも「ひと味違う」二中学生の姿を見つけました。お子さんは、友達に、教職員に、地域の方にどんなあいさつをしているのでしょうか。

お詫びと訂正

第1号で学校だよりの従来からの題名を「岩瀬ヶ森」と紹介しましたが、「岩瀬ヶ丘」の誤りでした。ここにお詫びし、今回から訂正いたします。

この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。